

「道の駅めぐみ白山」をプラットフォームとした SDGs 未来都市のプロモーション活動

団体名●新ゼミナール／代表者名●新広昭(経済学部経済学科教授)

はじめに

本事業は、地域資源(特産品、文化、歴史、コミュニティ等)の集積および情報発信拠点としての道の駅の機能に着目し、国の「SDGs 未来都市」に認定されている白山市の「持続可能性」を広くアピールしていくプロモーション活動を展開することを目的に昨年度に引き続いて取り組んだものである。

なお、本事業は昨年度は、本学と白山市とで締結している包括連携協定および国土交通省が全国で進めている、道の駅と大学との交流・連携の一環として白山市、道の駅めぐみ白山および国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所の連携事業として実施したが、本年度はコロナ禍の影響で白山市および道の駅めぐみ白山との連携事業として実施した。

活動内容

活動は2020年8月21日に現地視察を行い、8月26日～27日に下記の2項目を中心に行った。

①地元特産品の SDGs 商品としての情報発信活動

物販コーナーで販売されている地元特産品の原材料、生産方法、生産者、商品の特徴などを学生が調査し、SDGs の17項目の目標と紐づけ、オリジナルPOPを作成し商品の陳列スペースに掲示した。また、商品とPOPをinstagramで情報発信した。

②道の駅の来訪者(客)へのアンケート調査

来訪者33人に対して下記項目についてアンケート調査を実施した。

- ・来訪者の属性(性別、出身地、来訪目的)
- ・SDGs の認知度
- ・白山市がSDGs 未来都市であることの認知度
- ・オリジナルPOPの認識
- ・コロナウイルスへの意識

成果、結果の考察

①オリジナルPOPの作成

剣崎唐辛子、麴あまざけ、おまっとジェラートなど8商品のオリジナルPOPを作成



左：オリジナルPOPの例 右：POPの掲示

②アンケート調査結果

- ・SDGs 認知度：何らかの形でSDGsを知っている人は49%と約半数であった。
- ・SDGs 未来都市認知度：白山市在住者で白山市がSDGs 未来都市であることを知っている人は56%であり、昨年度(33%)の1.7倍となった。
- ・オリジナルPOPに気づいた人は26%で、昨年度(16%)の1.6倍となった。

この活動の成果は2021年2月14日にオンラインで開催された、環境省EPO中部主催「中部地方ESD／SDGs推進ネットワーク地域フォーラム」において、「若者にとってのSDGs」として名古屋市立大学、中部大学、富山大学および新ゼミの学生が取組みを発表したが、本取組みは「道の駅とSDGsを結びつけた他にない斬新でオリジナルな取組」との評価をいただいた。また、3月2日には白山市に対してオンラインでの成果報告会を行い、高い評価をいただいたと考えている。

今後の課題、展望

来年度は、生産者を巻き込んで本格的な「SDGs商品づくり」を進め、他の自治体の道の駅との連携により「SDGs商品交換市」のようなイベントができないかといったことについて白山市および道の駅めぐみ白山と協議していきたい。